

富士山の火山活動解説資料（平成 28 年 8 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～4）

18 日に実施した現地調査では、山頂周辺には噴気は見られず、ガスの臭いも感じられませんでした。日射の影響を超えるような熱異常域¹⁾ もみられませんでした。

萩原遠望カメラ（富士山山頂の東南東約 18km）、中部地方整備局が朝霧（富士山山頂の西約 14km）及び富士砂防事務所（富士山山頂の南西約 17km）に設置しているカメラによる観測では、今期間、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図 5、図 6）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 7、図 8）

GNSS²⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

- 1) 地表面温度分布は赤外熱映像装置を用いて観測を行っています。この装置は物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 富士山 山頂部の状況
（8 月 17 日 萩原遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 9 月分）は平成 28 年 10 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図2 富士山 撮影位置A（図3）およびB（図4）と撮影方向

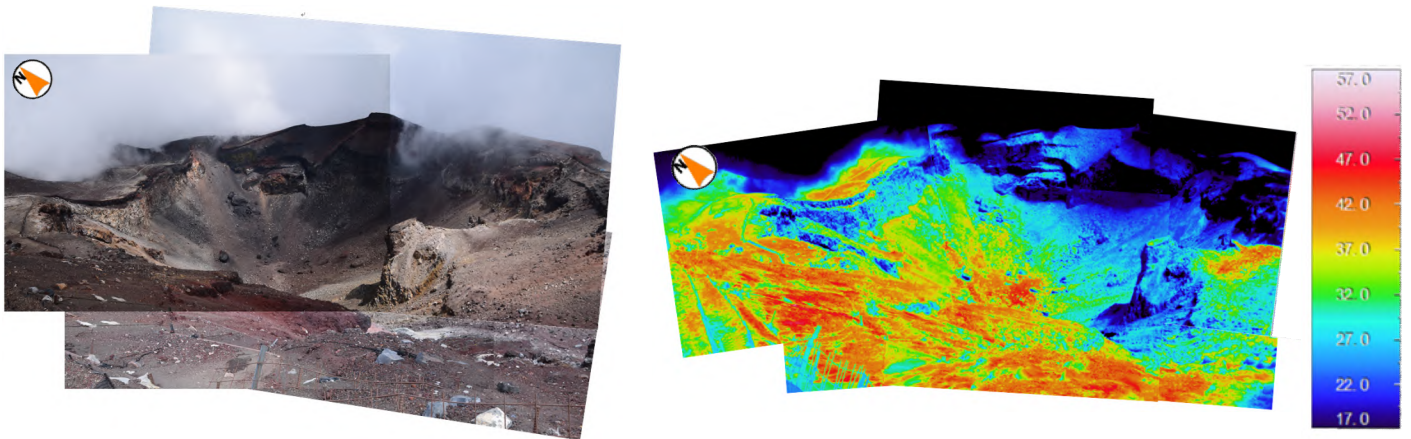


図3 富士山 赤外熱映像装置による山頂火口の地表面温度分布（8月18日） 図2のAから撮影

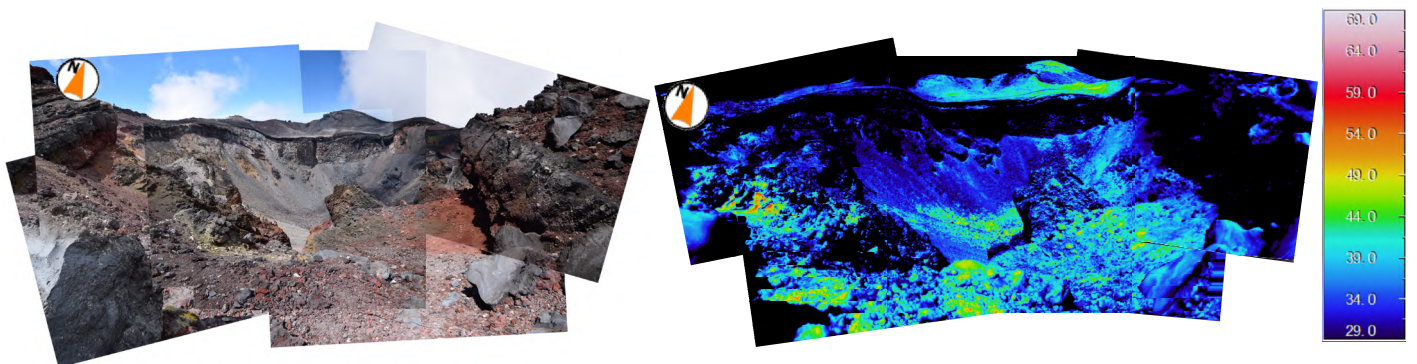
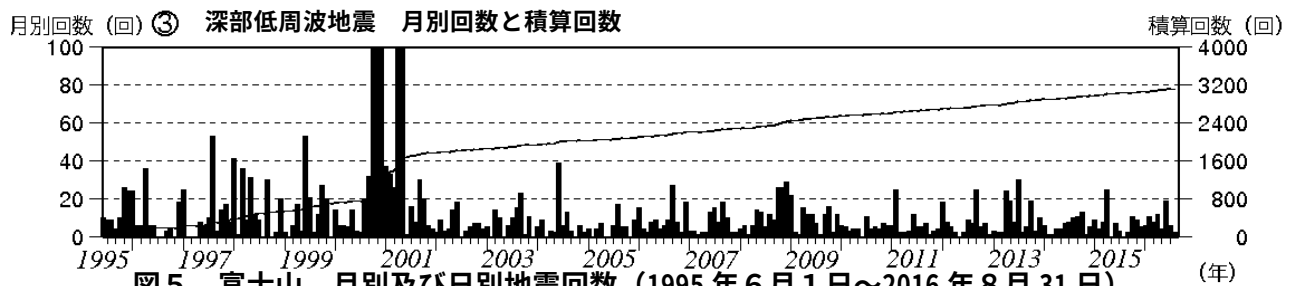
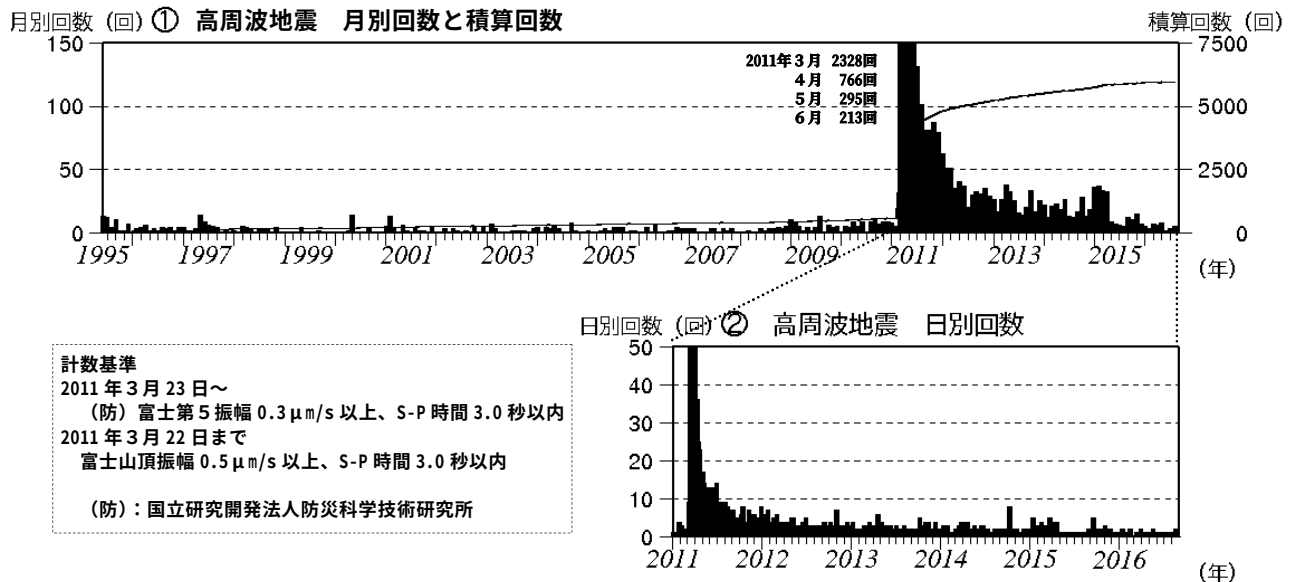


図4 富士山 赤外熱映像装置による山頂火口の地表面温度分布（8月18日） 図2のBから撮影

- ・ 8月18日に実施した現地調査では、山頂周辺には噴気は見られませんでした。図3、4で、地表面温度が高く見える領域は、日射の影響を受けており、これを超えるような熱異常域はみられませんでした。



- ・2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。

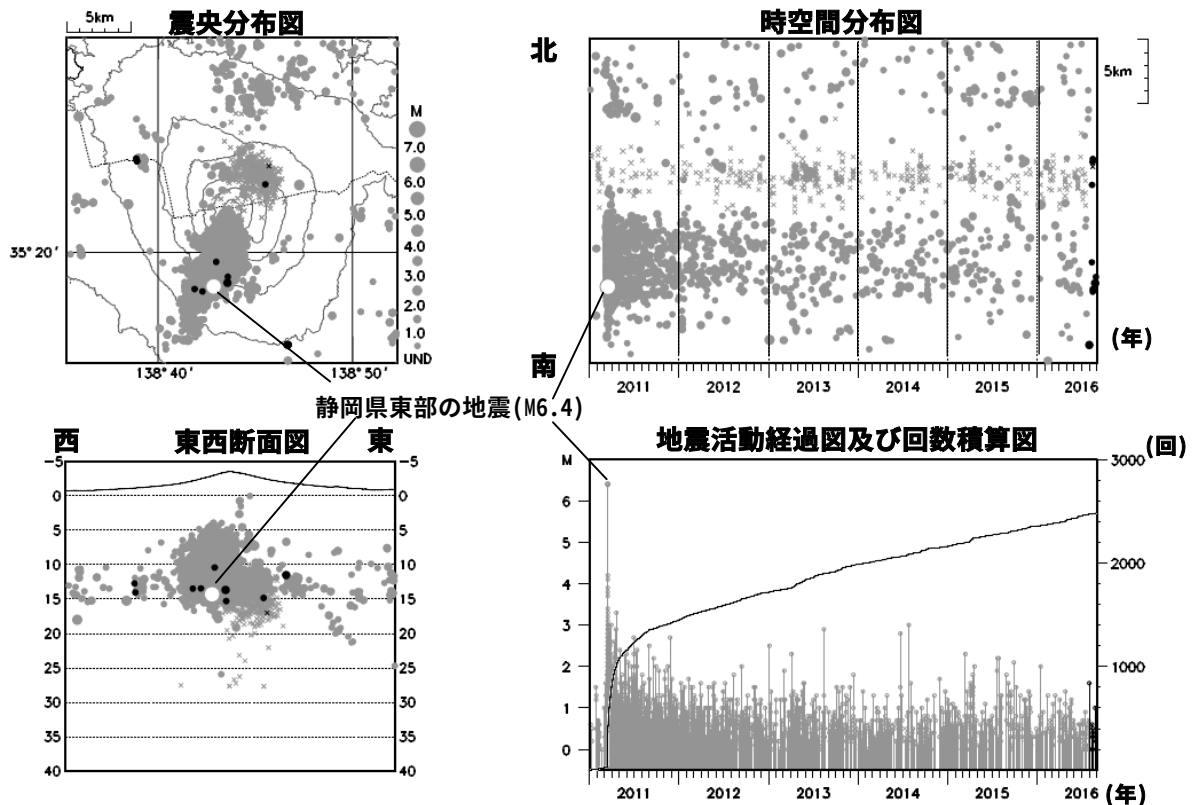


図6 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動 (2011年1月1日～2016年8月31日)

●：2011年1月1日～2016年7月31日 ●：2016年8月1日～8月31日

- ・×は深部低周波地震を表します。M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

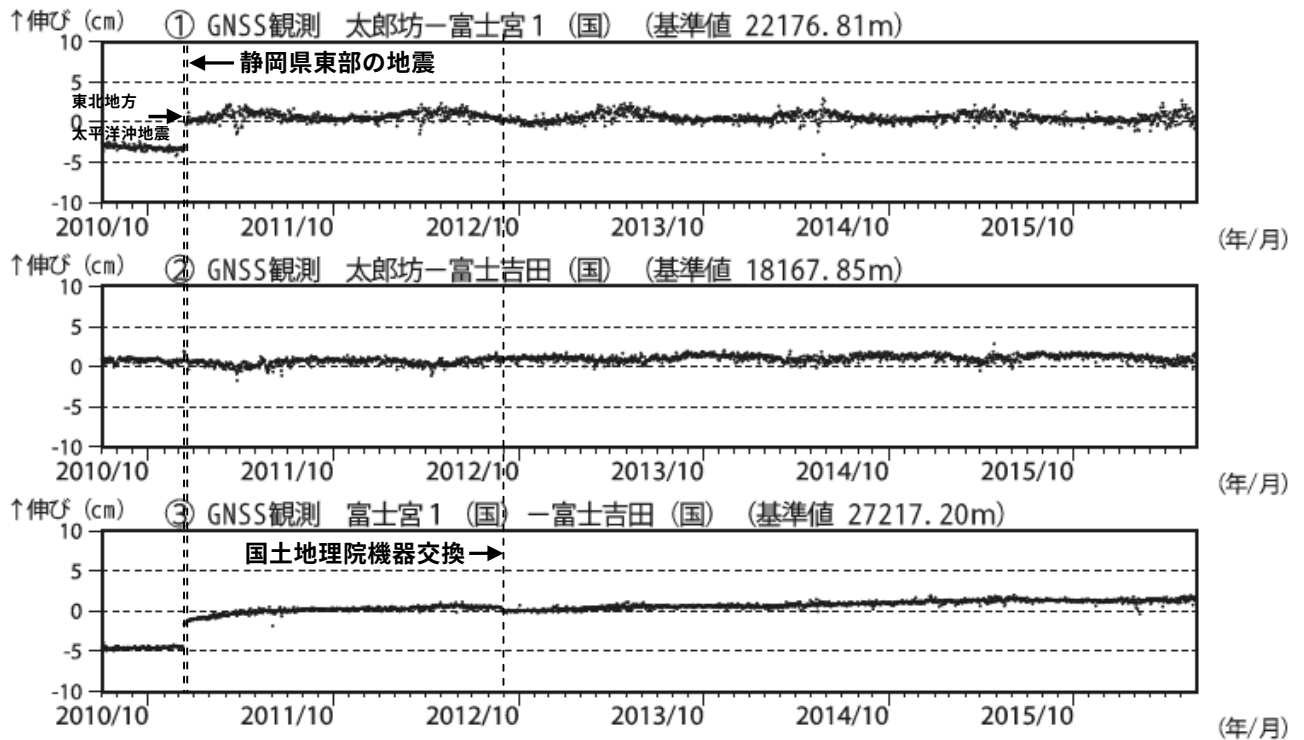


図7 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月 1 日～2016 年 8 月 31 日）
（国）：国土地理院

- ・2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。
- ・①～③は図 8 の GNSS 基線①～③に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

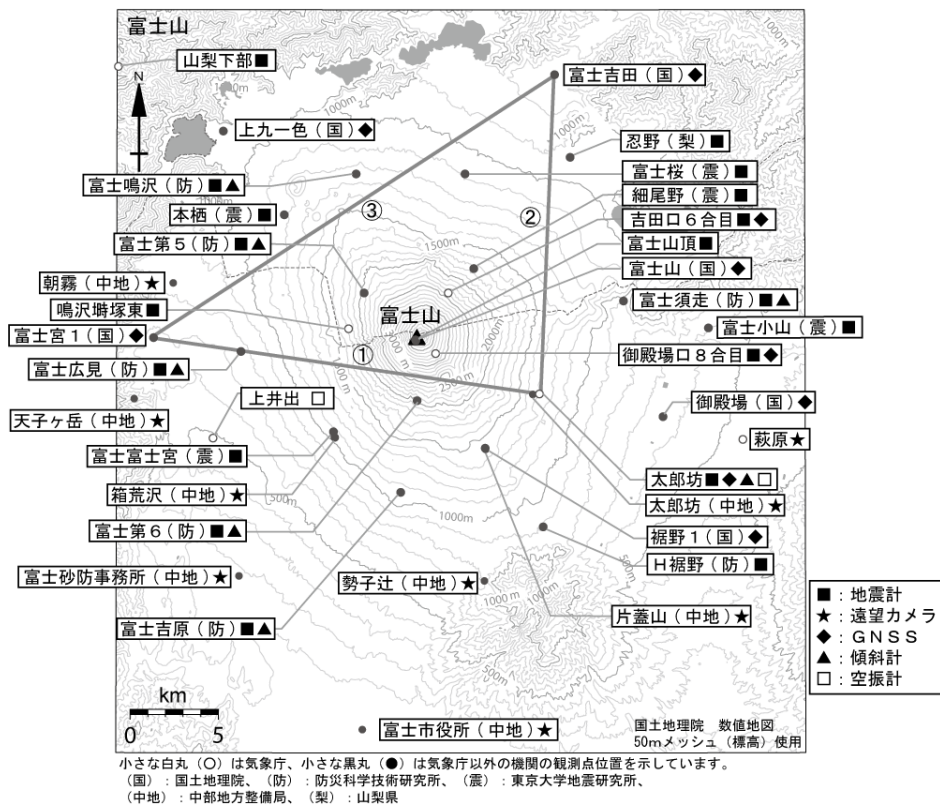


図8 富士山 観測点配置図

- ・GNSS 基線①～③は図 7 の①～③に対応しています。